

幸せを呼ぶマロンのしっぽ

四年 草野一琉

ぼくの家には、マロンという猫がいます。目がクリクリしていて顔が小さく、とてもかわいいです。猫アイドル選手権があったら、ゆう勝すると思うくらいかわいいです。

マロンは、ぼくが生まれる前から家にいます。ぼくが赤ちゃんだったころは、「ねている一琉の周りをぐるぐると歩いて、いつも見守ってくれていたんだよ。」

とお母さんから聞きました。今でもぼくの元気がないときは、そばにきて「にゃー」となき、「元気をだして」と言ってくれているようです。

ぼくのじいちゃんが病気で入院したときは、いつもと様子がちがいで、家の中を歩き回っていました。きつと、じいちゃんを探していたんだと思います。じいちゃんが退院して家に帰ってきたときは、ずっと後をついて歩いていました。じいちゃんが帰ってきて、よっぽどうれしかったマロンの気持ちが変わりました。じいちゃんも、そんなマロンの姿を見てうれしそうでした。

猫のしっぽは、すわりと長いイメージだけど、マロンのしっぽは五センチくらいの長さで丸まっています。調べてみたら、かぎしっぽと言うそうです。かぎしっぽになるのは、遺伝子による先天的な要

因と事故などによる後天的な要因だと知りました。そして、かぎしっぽは幸せを呼ぶとも書いてありました。

ぼくは、やせています。ご飯をたくさん食べているけど、なかなか体重が増えません。友達と自分をくらべて落ち込むときもあります。マロンも、ほかの猫の長いしっぽを見て(自分のしっぽとちがうって落ち込んだりするのかな。)と心配になりました。そんなときは、

「気にすることないよ。みんな顔がちがうように、体だつてちがうんだから。」

「ぼくは、マロンのこともマロンのしっぽも大好きだよ。」
と声をかけたいです。きつと、マロンはぼくの顔をじつと見て、しっぽを上下に動かして話を聞いてくれます。

最近、動物に対するぎやく待のニュースをよく見ます。そのニュースを見るたびに、ぼくは悲しい気持ちになるし動物が幸せではないことに心が痛みます。どの動物も、悲しい思いをしないで毎日をすごしてほしいです。

ぼくの家族が、みんな幸せに毎日すごしているのは、マロンがいてくれてマロンの幸せを呼ぶしっぽのおかげだと思います。これからも、マロンが幸せを感じられるように大切にして、ずっと一緒にいたいです。

マロン、ぼくの家族になってくれてありがとう。